

ワイナー（Weiner, B.）の帰属理論に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 人は自分の属する集団が共有する価値観や規範に無意識に影響されて態度や行動を決定するとした。
2. 目標達成に対する努力の程度は、目標達成への期待と目標の価値との関数として捉えられるとした。
3. 有能性、自律性、関係性という人のもつ主な三つの欲求によって動機づけが決定されるとした。
4. 成功と失敗に関する原因を内的—外的などの複数の次元で分類し、そのうちのどこに原因を求めるかによってその後の動機づけの程度が異なるとした。
5. 人は行動の原因を外部の状況要因より行為者の内部要因に帰する傾向があるとした。

印象形成における光背効果に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 他者がある側面で望ましい（又は望ましくない）特徴をもっていると、その評価を当該人物に対する全体的評価にまで広げてしまう傾向のことである。
2. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、親や師などの関係者に対する評価を当該人物にまで適用してしまうことである。
3. 他者の性格や行動傾向を当該人物の人種、性別、所属集団などの特徴から推測してしまう傾向のことである。
4. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、当該人物との最初の接触時の情報が後々まで強い影響を及ぼすことである。
5. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、当該人物自体の特徴だけでなく、接触した場所の特徴が強い影響を及ぼすことである。

正答 1